

2月号

第456号

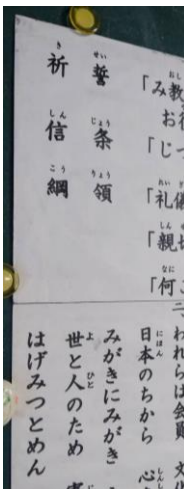
# いっしん

令和5年(2023年)

ごみをかぶれ  
ごみを肥しと  
なすならば  
末は花咲き  
実も結ばなん  
甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師神歌

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市  
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895  
Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

教祖様140年／四神様130年／三代金光様60年／小倉教会布教138年／甘木親教会布教119年／  
加治木教会布教72年（令和5年2月26日、矢野政美大人25年祭・サダ子大刀自10年祭）



## 少年少女会 「鏡開き」

一月八日(日)少年少女会「鏡開き」  
が開かれました。

「鏡開き」は、本来お正月に神様にお供えしたお鏡モチで「ぜんざい」を作って頂くのが習わしですが、「コロナウイルス感染症第八波拡大の真最中で、感染拡大の恐れがありましたので、ぜんざいとたこ焼きの会食は中止し、たこ焼きを焼いての、お持ち帰りとなりました。

二月二十六日には、前教会長矢野政美大人、矢野サダ子大刀自の式年祭が仕えられますが、政美大人は生前「一人でも参加者があるならば、少年少女会を開かねば」と、よく言っておられました。また、例会も月に二回開くように心がけておられました。

それほど、大人だけでなく子供たちの信心教育を願われ、家族信心となり、真の助かり立ち行きが現れて行くことを願われてあります。

この信心の内容を確かに現わし伝える  
て行きたいものです。  
(つじきは、  
スエーデンに記事)

少年少女会「鏡開き」…P1・P6  
お知らせ…P7

遺稿 矢野政美大人 ほか…P2～5  
教会行事…P8

前加治木教会長

# 矢野政美大人

遺稿

矢野政美大人二十五年祭・矢野サタ子大刀自十年祭を二月二十六日にお仕えさせていただくにあたり、矢野政美大人をはじめ、当時の「いっしん」の遺稿を改めて読み、頂き直し、「加治木の土」なる「決意で御用を進められた信心姿勢をお思いし、頂き直し、弛んでしまいがちになる信心の、立て直しをさせていただこうとするものであります。

## 平和を願う心

「いっしん」昭和五十八年二月号



矢野政美大人

「平和」を願うということとは、全人類に相通する心であると思います。

ところが現実には、あらゆる所で争

いの絶え間がありません。そのために、二つとない尊い人の生命さえも奪われ、犠牲になっておるといふことは何としたことでしょうか。

私共が、小学校の時の教科書に「太陽と風」というのがありました。

その大略は、太陽と風がある寒い日に、旅人のマントをどちらが早く脱がせることができるか競争したのです。

先ず風が、ヒューヒューと台風並みの強さで、旅人のマントを脱がせようとしますが、旅人はマントを脱ぐどころか、反対にマントが飛ばされないように、しっかりと襟(えり)を立てて握りしめて身を固めます。

ところが次に、太陽が雲のあい間から顔を出し、和やかに暖かく輝きますと、旅人は段々身体が温くもってきまして、着ていたマントを脱ぎました。この話は一体何を私共に教えているのでしょうか。

教祖の神様は「天が下に住む人間は皆神の氏子」と仰せになり、また「天が下に他人ということはないものぞ」とも仰せ下さっております。

天地金乃親神様からご覧になられた

ら、地球上の人すべてが愛しい神の氏子で、洋の東西を問わず皆が仲よくしていくことをどれ程願ひ続けてあられることでしょうか。

国と国でも、一方が片方を仮想敵国として警戒を強めてゆけば、相手方もいよいよ硬直してこちらを見ていくようになります。

「まこと」は「まこと」を呼び、「我」は「我」を呼ぶことになってきます。

私共が、朝夕の御祈念に奏上させていただいております「神前拝詞」の終りのところに「総氏子身上安全世界眞の平和の御神願成就せしめ給えと願ひまつる」とありますが、親神様の御神願の最たるものは、実にこの「世界眞の平和」ということではないでしょうか。

先ず私共一人一人が、平和な心の持ち主になって、その波紋を周囲に拡げてゆき、子孫の末の末まで平和な世界、戦いなき世界を築かせていただくよう一心に祈り、一心に努めさせていただきたいと念願させていただいております。

## 遺稿

## 信徒幹部研修会

（甘木親教会）報告

須藤 貞美

「いっしん」昭和五十年十一月号



去る九月十三日から十四日、甘木親教会で例年通り手続教会の信徒幹部研修会が執り行われまして、山之内実洲さん鎌田春美さんと私三人が出席のおかげをいただきました。その会の様子を皆様にご報告するようにとの親先生のお言葉でございましたので、二日間にわたる研修会のあらましを書かせていただき共に信心の稽古をさせていただきます。

十三日十時から受付が始まり、お広前での御祈念が終わった後、十時から四十分間矢野岩次郎先生の挨拶がありました。その中で第一番に言われましたことは、「自分と安武松太郎先生との出会いは当たり前のことではない、大きな神様の計らいで感謝してもしても足りない」と言われ「御先代の中には神様がござった、そして私の

中には、今なお御先代が生きてござる、神に助けてもらった！親先生に助けてもらった！ならば自分は親先生を助ける氏子にならねばならん、つまり御用に使ってもらえる氏子になることである」と力説されました。

また、「神の領分と人間の領分をわきまえて人間でできることは、とことん苦勞して、もうこれ以上は人間の力では及ばないというところまでいって、それから先を神様におすがりせねばならない、世の中が進歩するにつれて信心も上すべりの信心が多くなった、学問が進歩して人間性が退歩するようであってはならない。おかげに馴れておかげの上に居座っているのではないかと反省してみるべきで、教会広前では信心の稽古をする場所だから大いに意見戦わすこともあって良い、そして稽古した信心を世間に出てから生かして現わしてゆくことが大切で、これを間違えてはならない」このようなお話で、本当に時間が足りない思いで一杯でございました。

十三時から十五時まで、安武親先生の教話があり、御先代の数々の逸話めいた想い出話があった後、加治木教会の親先生の御母堂矢野クラ様の「大病の折の話」をされて、御先代親先生に、おいとま乞いに御結界に座られた時、御先代親先生からきついお言葉でお叱りを受けられた事を細々（こ

まごまごとお話しされてへこの者ならばほんなきつい言葉をかけても聞き違いはない」と思われたから思い切った事が言えたのだとお話しされ、

「案の定クラさんは、その叱られた言葉によって自分自身の信心を反省し、これを機としてそこから信心の大きな転換がなされた。信者の中には、いろいろなタイプがあり、ちょっと言い聞かせれば腹を立てて横を向く者がいるが、そのような者には思い切ったことが言えないから、おかげも受けられない。子供も同じこと、思い切って叱れない子はそれだけ親とのつながりも薄い、神の徳を頂くためには、ままよと思ふ心がなければおかげは受けられない、天にまかせよ地にすがれよ、何もかもまかせて、いつどのような事があるうとも神にまかせろ心が大切である、御先代は何かあった時しかお参りしない者は、自分の手許の都合が悪い時は借金して自分が良くなれば返さないでそれっきり打ち切るということ同じだと言っていた」

そして、最後に、「受けたおかげの万分の一でも報いるために命を大切に生きて長生きして、それもただ長生きするのではなく、御用に使ってもらえるようにお礼とお詫びがほんとうにできるように、信心の稽古をして行かねばならない」





上げました。

実際に私達は、自分の身の上にふりかか  
ってこなければ、その事を痛切に感じさせ  
ていただくことが、何か足りないのではな  
いかと思いました。その時は、すぐにおさ  
まらせていただきました。お気付である間  
はよいのですが、「それでよいのか」と、  
神様が私の信心を打ち打って下さって  
いるような思いが致します。

本当に一寸先はヤミと言われている  
ように、先のごとは何も分りません。しか  
し、有り難い神様でございます。心のど  
かに油断があれば、お気付けを下さいます  
し、また間違えば心からお詫ひし、改まら  
せていただければお許し下さいます。

私達に先のごとは分りません。しかし、  
この有り難いお道の信心を頂いています  
ので、氏子としての道を正しく素直な気持  
で、子供達にも伝え教祖百年大祭に向って  
一生懸命信心に打ち込み、未信の人にも、  
一人でも多くお道の尊さをお伝えして、世  
界の平和につながらせていただれますよ  
うにお祈り致しております。

※これらの遺稿を読ませていただきますと、当時  
の加治木教会の確固たる信心の空気・姿勢・熱気が  
伝わってきますとともに、神様に真剣に向き合われ  
てあったことがよくわかります。  
(教会長)

【今月号表紙の句】

ごみをかぶれ

ごみを肥しとなすならば

末は花咲き

実も結ばなん

安武松太郎師御歌

教祖様は、修験者たちがお広前を  
荒らしに来た時に、

「神様が、打ち向かうものには負け  
て時節にまかせよと仰せられるのは  
このような時のことぞ」  
と仰せられひとつも腹を立てず、大  
きな広い心でなされるがままにされ  
てあったということですよ。

修験者たちは、自分たちの所に難  
儀に苦しみあえぐ人たちが助けを求  
めて来なくなり、助かることのでき  
る教祖様の所へ行くようになったこ  
とに腹を立て、自分たちの徳のなさ  
を省みることなく、神官や僧侶の資  
格もない弱い立場の教祖様を見くだ  
し、暴挙をくだしてました。

しかし、教祖様はそのような暴挙  
に対しても、修験者達の非を責めず、

恨まず、憎まれることもありません  
でした。

ゴミを田畑に入れて、丁寧に鋤(す)  
き込んで行けば、やがて地中の微生  
物がゴミを分解して、肥沃な土壌と  
なり、作物がよく育つようになります。  
す。

どんな難儀も問題もわすらわしい  
ことも、一時の感情で受けるのでは  
なく、すべてに対し感謝に溢れた、  
和やかな広い天地のような心で受け  
入れることができる、やがて豊か  
な将来や実りある結果が現れてくる  
ことになるという意味合いのみ歌で  
あります。





# 少年少女会「鏡開き」

コロナウイルス感染症拡大のため、会食はなしで、たこ焼きを焼いての、お持ち帰りとなりましたが、七種類の材料で作る「七種(ななくさ)たこ焼き」をみんなで焼いて、年始めの例会を楽しく過ごさせていただきました。

「ナナクサタコヤキ」の七種類の材料は、タコ、チーズ、エビ、ウインナーを具にして、小麦粉、タマゴ、キャベツの七種類で「七種(ななくさ)たこ焼き」ということで・・・。

最初のうちは「味見はしないで焼こうね!」という声が皆から出ていましたが、十二時近くになるとお腹の方が辛抱できず、余った材料をたこ焼き器の端(はし)で焼いて・・・。

それが美味しくて、食物の有り難さとともに「空腹は最高の調味料」ということが勉強できましたね!

また、この日のお楽しみのお紙芝居は『のっぺらぼう』でした。

お正月の習俗にちなんだ紙芝居が、すでに市民のだれかさんが市立図書館から借りて行った後でしたので、日本

の文化の匂いがする紙芝居をさがすとありました。それは『のっぺらぼう』! 意外とみんな、けっこう集中して見入っていましたね。

この物語では「のっぺらぼう」にかかわられた男性のお話ですが、その男性が物語の最初で「自分には怖いものなどない!」と自慢をしていました。人は謙虚に生きる姿勢が大切ということを教えられたお話でした・・・。



感 詠 (教会長)

感染者過去最大となりゆくも  
進め行かれる社会経済  
密閉の機会増え行く厳寒に  
感染増えるは避けられぬかと  
満月が正月明けの夜を照らし  
なぜか和らぐ心生まれり  
わが器小さきがため入れられぬ  
神の恵みや幸せの種  
年賀状書き終えたるは十二日  
門松すで見かけざりに  
電気代節約せんと努めゆき  
足指の先霜焼けのでき  
一二度を経験すると六七度  
しのぎやすしと思える不思議



あしあと

加治木教会行事記録

- 1月
- 1 (祝) 元日祭 正午
  - 3 (火) 甘木親教会年頭参拝
  - 8 (日) 清掃御用 10時
  - 9 (祝) 少年少女会(鏡開き) 10時半
  - 10 (火) 月例祭(天神様) 10時半  
併せて成人感謝祭
  - 21 (土) 清掃御用 10時
  - 22 (日) 月例祭・共励会 13時半
  - 29 (日) 連合会定期総会(鹿兒島教会にて) 10時
  - 31 (火) 清掃御用 10時


金光教加治木教会祈願祭にて  
少年少女会連合本部派遣講師による

# 育成懇願会

## 7月9日(日)

11:00~祈願祭ご祭典  
12:00~講話 (家庭教育と青少年育成について)

講師 少年少女会連合本部派遣講師  
**宮野 寿 先生** (下関北教会)



会場：金光教加治木教会

ご霊神様のおまじ

二月

- 桐野ケサノ之霊神(1日)昭和9年
  - 桐野秋子之霊神(3日)昭和7年
  - 中村照子之霊神(4日)平成15年
  - 星原春雄之霊神(5日)平成24年
  - 吉屋安光之霊神(8日)平成1年
  - 川畑正徳之霊神(12日)昭和23年
  - 矢野政美大人之霊神(12日)平成11年
  - 野元和子之霊神(13日)平成30年
  - 小屋敷慶二之霊神(14日)平成4年
  - 川畑助太郎之霊神(18日)昭和23年
  - 最勝寺剛藏之霊神(18日)昭和47年
  - 平島タキノ之霊神(18日)昭和52年
  - 福山一間之霊神(20日)平成16年
  - 川畑幸正之霊神(21日)昭和21年
  - 中村正義之霊神(21日)昭和21年
  - 野口ミヤノ之霊神(22日)昭和60年
  - 永原初男之霊神(22日)平成22年
  - 大山テル之霊神(22日)平成27年
  - 平島房代之霊神(24日)昭和6年
  - 中島武夫之霊神(24日)昭和50年
  - 桐野ケイ之霊神(25日)昭和2年
  - 前田京子之霊神(25日)平成14年
  - 山下ヒサエ之霊神(28日)平成2年
  - 宮内ミツル之霊神(28日)平成13年
- 「先祖のご霊神様の、現世・幽界(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げましょう。教会では、十日の月例祭で、霊前で霊祭をお伝えし、「ご家族の玉串を奉てんを準備をしています。」

二月十七日(金)

甘木親教会

# 報徳祭参拝

引き続き 初代・二代教会長例年祭

二月二十六日(日) 十二時より

前日、清掃御用

報徳祭 引き続き

矢野政美大人二十五年祭

矢野サダ子大刀自十年祭

ご祭主・ご教話

甘木親会長

安 武道義親先生

《隣接・関係教会 報徳祭》

二月二十三日(祝) 多良木教会

午前十一時より

一月二十五日〜二月八日

報徳祭・式年祭 奉迎

# 寒中一斉信行

ご祈念・研修 午前五時十五分・午前十時

## 教会行事

2月

1 (水) ●報徳月例祭 10時半

4 (土) 甘木親教会初代立日(御祈念 十時)

9 (木) 清掃御用 10時

10 (金) ●報徳月例祭 10時半

11 (土) 矢野政美大人立日(御祈念 十時)

17 (金) ●甘木親教会 報徳祭 11時

21 (火) 清掃御用 10時

22 (水) ●月例祭・共励会 13時半

25 (土) 準備御用 10時

26 (日) ●加治木教会報徳祭

28 (火) 清掃御用 10時

《未定行事》青年会・若婦人会

3月

1 (水) ●報徳月例祭 10時半

3 (金) 甘木親教会参拝日(信者集會 備注 感話発表 当番)

9 (木) 清掃御用 10時

10 (金) ●報徳月例祭 10時半

13 (月) 矢野クラ刀自立日(御祈念 十時 鹿兒島)

18 (土) 19 (日) 典楽講習会教 会

19 (日) 清掃御用 10時

21 (祝火) ●春季霊祭 10時半

22 (水) ●月例祭・共励会 13時半

31 (金) 清掃御用 10時

4月

1 (土) 2 (日)

●御本部天地金乃神御大祭 参拝

「改まりの願い」(加治木教会)

自己中心の信心から

親神様の御立場に立った信心に、

親神様を使う信心から

親神様にお喜びいただき

ご安心いただく信心に、

おかげを信じる信心から

親神様ご神慮を信じる信心に、

改まらせていただく。

# 典楽講習会

三月十八日(土) 13:00・十九日(日) 10:00

鹿兒島教会にて

琴・龍笛・笙・箏・太鼓